

主 題：栄光の希望を見失わないために6

聖書箇所：ローマ人への手紙 8章29-30節

パウロはこのローマ人への手紙8章18節から、私たち信仰者に与えられたすばらしい希望、永遠の希望について話を進めています。その希望とは、一度救いに与ったものは永遠に救われており、その救いを失うことは決してないというものです。そして、私たち信仰者は後に栄光のからだをいただき、主とともに永遠を過ごすということです。私たち信仰者にはすばらしい祝福、すばらしい希望が与えられていることをパウロは繰り返して私たちに教えているのです。それゆえに、信仰者として生きて行く上で、いろいろな困難、迫害を経験するけれど、しっかりと主を見上げて忠実に歩み続けて行くようにと、そのことをパウロは勧めるのです。18-25節に、私たちはそのパウロの勧めを見ました。信仰者として生きて行くことは大変だけれど、しっかりやりなさい、いろいろな辛いこと、困難があるけれど忠実に歩み続けて行きなさいと、そのようにパウロは勧めを為すのです。

そして、今度は26-27節には、すばらしいことは、あなたがそのような歩みを為して行くために、神はちゃんと助けを備えてくれていると言います。私たちの弱さを知っておられる神だからこそ為すことのできるわざです。あなたが主のみこころに従って生きて行くことができるように、神は助けを備えてくれているのです。そのことが26-30節に教えられているのです。どのような助けがあったのでしょうか？思い出してください。

☆神が備えられた助け 26-30節

1. 聖霊なる神の祈り：執り成しの祈り 26-27節

聖霊なる神があなたのために執り成しをしてくださっているのです。聖霊があなたのために祈っているのです。神のみこころに従って歩んで行きたいと願っても、なかなかそのように歩めない私たち、弱い私たちのために、聖霊はいつも祈り続けてくれているのです。だから、私たちは「主よ、失敗を繰り返すけれども、私はあなたのみこころに従って行きたいからどうぞ助けてください。そして、あなたのみこころが私の考えていること願っていることと違っても、喜んでそれを受け入れて行くことができるように、私を助けていってください。」と、そのように私たちは主に助けをいただきながら、主の前を正しく忠実に歩み続けて行こうとするのです。

2. 主なる神の導き：神はすべてを信仰者の益のために為される 28節

神はあなたを放っておきません。一人にしないのです。神はあなたに必要なものを備えてくれているし、あなたが成長するために必要なことをいつも為さるのです。28節に「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益とくださることを、私たちは知っています。」と言われました。この「益」とは、あなたが欲しいものを与えるという約束ではありません。今持っているものよりもすばらしいものを神が提供してくださるという約束でもなかった。これはあなたが信仰において成長し、より主イエス・キリストに似た者に変えられて行くために、神はすべてのことを為しておられるという、そのことでした。

3. 神の完全な救いの計画：ゆえに、救いは保証されている 29-30節

これが救われた者への神の働き、また、神の祝福です。私たち信仰者、イエス・キリストの恵みによって救われた者たちは本当に祝された者です。その神が与えてくださったすばらしい祝福を、実は、パウロはこの29-30節で重ねて教えてくれます。28節に「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々…」とあります。つまり、神からすばらしい祝福をいただいた者たち、すばらしい救いの恵みをいただいた者たち、その人々がいただいた祝福を29-30節でパウロは教えて行くのです。今から見て行くことは、この救いに関して為された神の深遠なみわざです。そして、願わくは、それを通して私たち一人ひとりの救われた者が、新たな感謝と確信をもって忠実に歩み続けて行く者へと変えられて行くことです。神はこんなにすばらしい恵みを私にくださった、その恵みをいただいた者として、もっと主に喜ばれるように生きて行きたい、もっと忠実に歩んで行きたいと、そのような決心を一人ひとりが為すことができるようにと願って、ごいっしょにみことばを見て行きましょう。

29-30節「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。：30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召した人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」

「黄金の連鎖」と言われるほど、これは神が為してくださった五つの救いのみわざを私たちに教えています。五つのすばらしい神の救いのみわざがここに記されています。天地創造前の永遠の昔から、栄光

という未来の永遠に至るまで、神の為されたすばらしいみわざがここに記されています。順番に見て行きましょう。

A. 予知

29節に「あらかじめ知っておられる人々を」とあります。一つ目は「予知」です。このことばは「神は前もって知っておられた」という意味です。「あらかじめ知っていた」ということです。これは救いに関することですから、ある人々はこのように解釈します。神は時代を越えて、だれがイエス・キリストを信じるのかを確認した後、その人たちを選んだという考え方です。だれが信じるのかを見て、神がその人を選んだと、そのような考え方が確かにこのみことばを用いて教えられています。しかし、この考え方がおかしいのは、もし、それを受け入れてしまうなら、救いは神のわざではなくて、人の先行的行為に基づくものになってしまうことです。つまり、人がそのようにしたから神を選んだということになるのです。救いは神の恵みであるという教えにぶつかってしまいます。しかし、そのような考え方が確かにあるということを私たちは覚えるべきです。「あらかじめ知っている」ということは、神があらゆる時間を見て、イエスを信じる者たちを知って、その人たちをその後選んだという考え方です。しかし、この箇所パウロが言わんとしていることは次の通りです。

この「予知」とは、神が選ばれた人に示す特別な愛のことです。旧約聖書においては、この「神が知る」ということばは、神の選ばれた人々に対する愛情、契約の愛を示すということ、そのような意味があります。エレミヤ1：5には父なる神がエレミヤにこのように言われていることが書かれています。

「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」と。ここで言われていることは、神はエレミヤが生まれる前から彼のことを知っていて、彼が預言者になることを知っていたということではありません。神がエレミヤに対して、彼が生まれる前からエレミヤが預言者になるために愛をもって彼を選んでいたということを行っています。神ご自身が彼を選びそのような働きに導かれたということです。ですから、ここで言われている「予知」とは、神が個人的にある人を愛されたということです。神が一方的にある人を愛して、その人のためにわざを為されたということです。ジョン・マレーという神学者はこのことばに関してこのような説明をしています。「あらかじめ知っておられるというのは、神の子たちが選ばれたという特別な神の愛に焦点を当てている。」と。ですから、「あらかじめ知っている」とは神の子どもたちが選ばれたという特別な愛のことです。あなたが何かをしたからではなく、神ご自身があなたを選ばれたのです。神が特別にあなたを愛されたと、先ず、そのことをパウロは教えます。

B. 予定

二つ目は、29節に「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。」とあり「予定」ということです。「予知」があつて「予定」があるのです。

1. その意味：神があらかじめ、前もって定めていた、決めておられたということ 29節

ある計画を決めておられるということ。必ず達成される究極の計画、最終の目標を、神は前もって決めておられたということです。それはどのような計画でしょう？「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。」と、これが神が建てられた計画、目的なのです。選ばれた人たちが主イエス・キリストに似た者になるということです。しかも、29節で言うようにすでに「定められている」のです。「定められた」とは、必ず達成されるということです。神は必ずこの計画を達成されるのです。ですから、1ヨハネ3：2に「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」とあり、私たちはイエスに似た者になるとこのように約束されています。

たとえば、皆さんの家にお客さんが来るとき一日の予定を立てます。誰々が来て、こんなことをしてあんなことをしてと、最後に自宅でディナーをすることで、その計画に沿ってスケジュールを進めて行きます。神はあなたのためにすばらしい計画をもった、それはあなたをキリストに似た者に変えるということです。私たちがキリストにお会いしたとき、私たちは完全にキリストに似た者に変えられます。神になるのではありません。そして、その日まで地上にあって私たちは日々イエス・キリストに似た者に変えられ続けて行きます。もし、私たちが正しい動機をもって正しく歩み続けて行くなれば、神は私たちの内側を変え続けてくださるのです。

だから、私たちが先ず、この二つのことばで覚えておきたいことは、救われている私たちに神は特別な愛を示したということです。神は特別な愛をもってあなたを選んだということです。そして、神はあなたにすばらしい計画をお立てになりました。それは、あなたをイエス・キリストに似た者に変えるという計画です。そうすると、28節で見た「益」と記されていたそのことばの意味がここでより明確になりました。「…神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」とは、私たち

の欲しいものを神がくださるということを教えているのではないと見ました。私たちがよりキリストに似た者に変えられて行くために、神は「すべてのことを働かせて」くださっているのです。その根拠が29節に記されているのです。神はすばらしい計画をお立てになって、それを神が達成されるのです。そして、私たちたちがイエス・キリストに似た者に変えられて行く、その働きを神がされているのですが、私たち信仰者にも責任があります。それは、私たちがどのような選択をするかということです。ですから、みことばを見て行くと、このように歩んで行きなさい、このようにしなさい、こういうことをしてはなりませんと、そのように私たちの歩み方を繰り返して教えているのです。

神が為さろうとする働きは明らかです。私たちがイエス・キリストに似た者に変えようとする働きはもうすでに始まっています。ですから、私たちはその働きを邪魔してはいけません。何がその働きを邪魔するのでしょうか？罪です。私たちの罪が神の働きを妨害するのです。

適用：（1）どのような主を周りに証しているか？

私たちに神はすばらしい祝福をくださった、神が特別にあなたを選んでくださった、そして、あなたがキリストに似た者へと変えられるようにとその計画をもち、そして、その計画を神は必ず達成されます。イエスにお会いしたとき、私たちは完全にイエス・キリストに似た者に変えられるのです。しかし、その日まで、私たちはこの地上にあってこのイエス・キリストのすばらしさを世に証して行くのです。これまで見て来たように、私たちは世界の光であり、地の塩です。私たちはそのように人々の前に神のすばらしさを証するのです。皆さん、このことをご自分に問い掛けてください。私はどのようなイエス・キリストを世に証しているだろうか？私の人生は私の周りの人たちにどのような主イエス・キリストを証しているか？たとえば、もし、あなたが人の罪を赦さない人だとしましょう。一例です。確かに、これは大変な問題です。というのは、あなたは信仰者でありながら主の赦しを忘れてしまっているからです。そのような歩みは確実に神は喜ばれません。なぜなら、あなたは間違った主を人々に証しているからです。あなたのその間違った生き方が周りの人々に及ぼしている影響は、「私の主は罪を赦さない、また、赦しに条件をもった主です。」とそんな証をしているのです。

ペテロがイエスにこのような質問をしました。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」と。そのときにイエスは何と答えられたでしょうか？マタイの福音書18章に出て来ます。18：22「イエスは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。」と言われました。そして、イエスはそのことを理解させるために、つまり、兄弟が赦し合うことを教えるために、ある大切な「たとえ」を話されました。二人の者が借金を負っていたわけですが。ひとりには1万タラントの借金でした。もうひとりの者は100デナリでした。1タラントは6000デナリで、1デナリは1日の賃金です。ですから、1デナリを1万円として計算すると、約6千億円の借金を負っていたことになります。彼は「どうかご猶予ください、そうすれば全部お払いいたします。」（マタイ18：26）と言いましたが、返せるはずがありません。しかし、この「しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった。」のです（27節）。

ところが、そのしもべは出て行くと、彼からお金を借りていたひとりのしもべ仲間に出会うのです。彼が貸していた金額は100デナリでした。先ほどの計算で行くと100万円です。彼から借金をしていた仲間は「もう少し待ってくれ。そうしたら返すから。」と、彼が言ったのと同じことばを言うのです。けれども、彼は仲間を赦さなかったのです。そのことを聞いた主人は非常に怒って「借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。」（34節）と記されています。そして35節に「あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになるのです。」とあります。救いを失うということではありません。ここで言われていることは、このようにクリスチャンでありながら赦しを実践していなければ、その人には主の懲らしめがあるということです。

また、人を愛さない人だとしたらどうでしょう。これも大変な問題です。なぜなら、その人は間違った主を証しているのです。私の主はすべての人を愛する主ではなくて偏愛を持った主です、ごく一部の人だけを愛する主ですということを示していることになります。あなたはあなたの主をあなたのことばだけでなく生き方をもって証しているのです。あなたはあなたの主がどんな主であるかを周りの人々に明らかにしているのです。人々はあなたを通してどんな主を見ているのか？私たちはみな考えなければいけないのです。

（2）正しい主を証するために：罪を取り除く

では、私たちが私たちの主を正しく見てもらうために必要なことは、私たちから罪を除いて行くことです。悲しいけれども、地上にあって罪を犯さない人間にはなれません。しかし、私たちはこの罪からすぐに離れて、正しいことを行なうことによって、私たちのこのすばらしい主が私たちを通して明らかに示されて行くことを願って、そのような生き方をする者でありたいです。

信仰者の皆さん、あなたの心の中にずっと抱え込んでいる何かの罪はありませんか？解決できないでいる罪はありませんか？どんな罪であっても、どんなにあなたがそれを正当化しようと、罪は神の栄光を現わすことはありません。その罪を持っていては神の栄光はあなたを通して現わされないし、その罪はあなたがキリストに似た者に変えられて行くことを邪魔するのです。その罪ゆえに、あなたがキリストに似た者に変えられて行くことが遅れているのです。では、どうすればいいのでしょうか？罪から逃れることです。罪から離れることです。神の前に罪を告白して悔い改めて、そして、正しい道を選択して歩み始めて行くことです。その罪の中に留まってそこから逃れようとしないうるい愚かな選択ではなくて、そこから出て来ることです。私たちは救われた者として、神からこんな祝福をいただいている者として、この地上にあって罪に時間を費やしている暇はないのです。兄弟姉妹が集まっているときにだれかの悪口を言い合っているような時間は私たちにはないのです。そのようなことのために神は私たちを救ってくださったのではない、そのために神はこんなにも大きなすばらしい祝福をくださったではありません。私たちは罪から離れなければいけないのです。

こんな話を聞きました。ある人が食事に誘ってくれたと言います。どこの教会とは言いませんが、その時にその方はなぜ誘ってくれたのか考えたと言います。恐らく、自分が通っている教会のいろいろな不満などを言いたいからでしょう。その方はこのように言ったのです。「申し訳ないけどそんな時間はありませんとお断りした」と。信仰者の皆さん、私たちには選択の責任があります。私たちは間違った選択を止めなければいけません。なぜなら、私たちはキリストの栄光を現わすために救われ、キリストの栄光を人々に現わすために今生きているからです。あなたがキリストに似た者に変えられて行けば行くほど、私たちは私たちの生活を通して私たちの主を正しく鮮明に人々に明らかにして行きます。罪から離れなければいけません。あなたは何か抱えていますか？今、止めて悔い改めてください。そして「神さま、私を救ってくださったあなたのすばらしさを私が人々に宣べ伝えるために、私の生き方をもって、どうぞ私を洗ってくださって、そして、私を使ってください」と、そのような選択をして歩んで行くなれば、あなたは間違いなく「地の塩」として「世界の光」として用いられます。

そして、何よりもあなたが変わって行くのです。イエスは地上にあって最も幸せな人でした。確かに、神でありながら人々には受け入れられませんでした。ののしられました。非難されました。でも、彼は最も幸せだったのです。なぜなら、本当の幸せは神のみこころに従うところにあるからです？幸せは神がくださるのでしょうか？では、その神の幸せをいただくには神のみこころに従って行かなければいけません。罪は神に喜ばれないだけではありません。あなたを壊して行きます。罪はあなたから喜びを奪うだけではありません。感謝を奪うだけでもありません。罪はあなたの光が輝かないようにあなたを壊して行きます。私たち信仰者はその罪から離れて、神のすばらしさを反映するものとして歩んで行く者です。私たちはそのような歩みを為して行く責任があることを今覚えなければいけません。

2. その目的：「それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」 29節

その後、29節に「それは、」と続きます。「御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるため」とあります。何のことでしょうか？この「長子」ということばは新約聖書の中に8回出て来ますが、コロサイ人への手紙1：15、18を見ると「先に生まれた」「最初に生まれた」と訳されています。何を意味しているかと言うと、「身分や地位において最高である、至高である」、そういう存在だということを明らかにしているのです。29節「…多くの兄弟たちの中で」、つまり、クリスチャンたちの中においてキリストがもっとも優れた存在だと言って人々が彼を崇め続けるのです。なぜかと言うと、私たち信仰者はそのことを喜んで今日を今生きているからです。主イエス・キリストの恵みを感謝してその方の偉大さを称えながら生きていくわけですから、みことばが私たちに教えることは、私たちがそのようにイエス・キリストに似た者に変えられ続けて行くことによって、私たち一人ひとりが「神さま、あなたはすばらしいです。あなたに勝る方は存在しません。あなたはすばらしい愛をもってこんな愚かな者を愛してくださった。」と、そのように神を崇め続けて行くのです。その行為は地上だけではないのです。天に行っても続くのです。天国に行っても私たちはこの神のすばらしさを永遠に称え続けるのです。そして、天におけるその行為を、私たちは今は地上で行なうことが赦されているのです。

ですから、パウロはここで、あなたは神によって一方的に愛されて、そして、神はあなたのような者を選んでくれた、そして、あなたのために神はあなたをキリストに似た者に変えようという計画を立て、その計画を必ず成就させる。そのすべてを通して、そのわざをなさった神がほめ称えられ続けて行くと言うのです。

C. 召し：呼び出す 30節

それだけではありません。3番目は30節に「神はあらかじめ定めた人々をさらに召し」とあり、「召し」ということばが出て来ます。「呼び出す」という意味です。パウロがここで言っていることは「人が救われるということは神の為されるみわざだ」ということです。なぜなら、人間はみな生まれながらに霊

的に死んでいるからです。私たちは霊的に死んだ存在です。霊的に死んでいる者とはどういうことかと言うと、神のことや救いのこと、つまり、霊的なことに関する一切のことを理解できない者たちのことです。理解できないだけではないのです。それを信じることもできないのです。だから、私たちはイエス・キリストを信じる前、聖書の話聞いてもクリスチャンの証を聞いても、時には、すばらしいと思ったかもしれませんが、よく分からなかった。「神のすばらしさ」と言われても、クリスチャンがそのことを聞いて語って喜んでいてもよく分かりませんでした。なぜそれがそんなにすばらしいのか？あなたもそうだったでしょう？

ところが、神が働いた時にあなたにも分かったのです。確かに、神はすばらしい、そして、私は本当にどうしようもない罪人です、救われる資格のない存在だと、すべてのことを神が悟らせてくれたのです。霊的に死んでいる状態にあった時に分からなかったことを、神が働いて悟らせてくれたのです。ですから、救われるためには神が働いてくださらなければならないのです。この働き、罪人を救うために為される神のみわざ、このことを「有効召命」と呼ぶのです。Ⅱテモテ1：9でパウロはそのことを見事に言い表わしています。「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。」、今学んで来たことが記されているでしょう？神が私たちを救い、聖なる招きをもって私たちを召してくれた。それは私たちが何かしたという私たちの働きによるのではなくて、神ご自身の計画と恵みである、神が一方向的にこんなすばらしいことをしてくれた。救いは神のみわざだと教えるのです。続いて「この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであって、」とあります。神がこのようなことを為すということは突然決めたのではないのです。永遠の昔にもうすでに神によって定められていたのです。

私たちはどれ程神のことばを聞いても、神が働くまでは私たちはそれに応答することのできない者です。ですから、マタイ16：13-17でイエスが「人々は人の子をだれだと言っていますか。」という質問をした時に、弟子たちは「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」というような応答がなされた後、イエスは弟子たちに「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」という質問をされます。その時にシモン・ペテロが答えてこのように言います。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」（16節）とすばらしい告白をしました。イエスはそれに答えて「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。」と言われました。神が悟らせてくれた、神がそのような告白をさせてくれたと言っているのです。これは神のみわざだとイエスがお告げになったのです。また、ヨハネの福音書6章で、イエスを信じたと言っているけれど実のところ救われていなかった者たちが、イエスの話を聞くほどにいろいろなつづやきを始めました。そこで、イエスはこのようなことを言われました。ヨハネ6：44「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」と。イエスのもとに来る、イエスを信じるということは神が為さなければならない行為だと言っているのです。神が働かなければだれも神のところに来ることはないと言うのです。皆さんもよくご存じのとおり、ヨハネの福音書15：16では「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」と、神があなたを選んだからあなたはわたしを信じるのができたと言っているのです。ですから、この有効召命と言われているものは、神によって選ばれた人々が神に正しく応答できるように働いてくれるものなのです。

神が特別な愛をもって世界を造る前からあなたを選んでくださった、神はあなたにすばらしい計画をもっておられます。あなたがイエスに似た者に変えられるように。そして、そのように選ばれたあなたを神が救いへと招いてくれたのです。あなたの心に働いてこの真理を悟れるように、あなたには本当に救いが必要な存在だということを悟らせ、そして、備えられたこの救いを心から受け入れて、イエス・キリストを信じ従って行きたいという思いを与え、「私はあなたを信じます」という決心に至るまで、神があなたを招いてくださったのです。神のみわざです。

D. 義：義と認めた人々

「さらに義と認め、」、私たちはもうすでに学んだことです。これは法廷用語でした。法廷において裁判官が「この人は聖い、正しい」と宣告してくださる行為です。神は救われた私たちを何と「あなたは聖い、あなたは正しい」と宣言してくださるのです。

E. 栄光：栄光をお与えになった人々

最後に「義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりました。」とあります。「栄光」、私たちにはすばらしい約束が与えられています。この罪のからだから解放されて栄光のからだをいただき、栄光の中を主とともに生きます。そのことが約束されています。だから、私たちはイエス・キリストの再臨を待っているのです。この肉のからだ、罪のからだから解放されて栄光のからだをいただく日を。これがすべ

て救いであり、このすべての救いのわざを神がなしてくださったのです。一つ付け加えるとするなら、この最後の「栄光」は確実に将来のことです。栄光のからだを与えられるのは先のことです。ところがこのことばの動詞の時制は不定過去です。なぜ、そんな時制が使われているかという、これは確実に起こることだからです。もうあたかもそれが起こったかのようにパウロは記しているのです。なぜなら、これは確実な約束だからです。ピリピ人への手紙3：21に「キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。」とある通りです。

適用：救いは100%神の恵みです。その恵みをいただいた者にとってふさわしい行動はどのようなものでしょう？

信仰者の皆さん、救われた者としてあなたは神の祝福のうちを歩み続けます。確かに、信仰における戦いはあります。困難はあります。でも、神はすばらしい約束をもう備えてくださったのです。あなたはキリストに似た者に変えられ、あなたは栄光のうちを主とともに永遠を過ごせる。そのような約束を神はもうすでにあなたに与えてくれたのです。それでパウロは言うのです。「だから、こんな約束をいただいている者として今日をしっかりと生きて行きなさい」と。妥協してはいけません。神が与えてくださる救い、完全な神だから与えてくださる救いは完全です。永遠の神だから、与えてくださる救いは永遠のものです。真実な約束を守られる神だから、与えると約束されたこの救いは絶対に失われることはありません。私たちはこの約束をしっかりと覚えて、しっかりと永遠を見て、今日、主に従い続けて行くのです。そのようにして私たちは生きるのです。すごい慰めのことばだと思いませんか？ちゃんと神はわかってくださっている。すべてに配慮が行き届いています。弱い私たちが神に従って行くために神はすべてのことを為してくださっているのです。

信仰者よ、わたしの愛する者たちよ、わたしは特別にあなたを愛し、あなたにすばらしい計画を持ち、あなたを罪から召し出し、義とし、そして、栄光を約束した。あなたはわたしの愛する者、わたしを愛する者として成長して行きなさいと言われるのです。あなたはその問いかけにどのようにお答えになりますか？願わくは、私たちみな「主よ、どうぞ私をもっとあなたを愛する者に変えられますように、そのためにもあなたの愛をもっと正しく理解できるように助けてください。このみことばが教えてくれたあなたの恵みをもっと正しく理解できるように助けてください。そして、あなたに感謝する者に、あなたを喜ぶ者に、あなたを愛する者へと私を変えてください。」と、そのような願いをお持ちになりますか？そんな決心をもって今日から歩み始めようと思いませんか？主の恵みをいただいた者にふさわしく歩むことです。永遠の祝福をいただいている者として、あなたはふさわしく生きることです。その時に、あなたの周りの人々はあなたのうちに働いておられる主ご自身をごらんになります。それが私たち救われた者としての責任です。